

フレッシュ・エンジン投入で見事に Q1 突破!!

主催者からの性能調整が発表され、直線スピードに泣いた我々の VEMAC は、何とかリストラクター（吸入制限）が 1 ランクアップされることとなった。これに合わせて、チームはついに念願のフル・オーバーホール済みフレッシュ・エンジンを投入して、実質第 2 戦となる岡山へと臨んだ。

岡山国際サーキットは、前回の富士スピードウェイと比べて全く逆の性格であるコーナリング重視のコースであり、VEMAC との相性も悪くないことから、期待の持てるレースである。

金曜日の習熟走行も順調で、トラブルも無く作業メニューを消化した。

明けて土曜日、午前中の公式練習走行ではセッティングも良いようで、タイムは 300 クラス 22 台中 13 位と、予選への気合いも充分である。

そして迎えた公式予選、今回はノックダウン方式という“勝ち上がり式”で、Q1 での上位 16 台が Q2 へと進出し、Q2 の上位 10 台が最終 Q3 へと勝ち進む、F1 のような予選方式である。

アタッカーの和田選手は早々にコースインし、タイヤを温めてクリアラップを狙う。そして見事 10 位のタイムで Q1 を突破したのだった！

しかも、和田選手によるとあまり無理をせずに出したタイムなのだそうで、条件さえ揃えば、夢の Q3 進出すらも不可能ではなさそうな勢いに、皆の望みと期待を込めて Q2 へと送り出した。



フレッシュタイヤで挑んだ Q2 では、アタック 1 周目から調子も上々、タイヤの美味しいアタック 2 周目では、セクター 1 からセクター 2 と自己ベストを更新しながら通過した瞬間、何とスピンした車輛が原因で赤旗が掲示されてしまった……。

予選 Q2 は残り時間 6 分で再開されたが、一度に全車がコースインした為にトラフィックでクリアラップを取ることが出来ず、最初のアタック 1 周目のタイムを更新できないまま、我々の予選は 14 位で終了した。

もしアタック 2 周目が記録されていれば、確実に Q3 が見えていただけに、Q2 敗退は残念と言えるが、富士に比べれば躍進しているので、明日の決勝レースへと期待しよう。

上位入賞を目指す両ドライバーは、夜遅くまでメカニック達と共にドライバー交代やピットワークの練習に励んだのであった。